

住人十色

第 125 回



◎町並保存地区にある工房で作業をする2人。手にしているのが納品した竹箱

大仕事に最高の技術で応える職人 大嘗宮で使用された竹箱を共同制作

武智 壽夫さん、秋山 登紀子さん(武工房) =城廻=

竹細工職人の武智さんと秋山さん。皇位継承に伴う重要祭祀「大嘗祭」で使われる竹箱を、宮内庁に納品しました。

武智さんは58歳で仕事を辞め、京都伝統工芸大学で竹工芸を学びました。秋山さんは同大学の1年後輩で、4年前から武智さんの工房で働いています。以前は東北地方の職人が納品していましたが、作れる人がいなくなり、宮城県で修行していた秋山さんに白羽の矢が立ちました。秋山さんは「私は細い竹でザルを作るのが専門。箱物は作らない。武智さんがいるから作れた」と言うと、武智さんは「高い技術のいる仕事だった。二人の得意分野で初めて共同したが、試行錯誤の繰り返し。何度も編み直して、6つの箱を作るのに3カ月掛かった。間に合っってよかった」と頬を緩めます。

「いい機会をいただき、互いの技術向上につながった」と2人。普段、武智さんは真竹専門で、秋山さんが使う細い苦竹は使いません。「質感が違い、いろいろな発想が浮かんだ。内子の苦竹は良質なので新しい作品に挑戦したい」と武智さん。秋山さんは「武智さんは研究熱心で、その姿に感心する」とにっこり。今後共同で作品作りをするか尋ねると「もう無いかも」と声をそろえて笑いました。

編集 幸記

▽小田高校の取材は楽しかったです。黒板アートや生徒全員の写真撮影など、無理なお願いに全力協力していただきました。生徒たちも明るく素直で、すっかり気に入っています。40歳越えのおじさんが高校生に何度も泣かされるようになりました(裕)▽11月は、文化や芸術に関する行事がめぐる押しでした。取材を通して文化の秋に浸っていると、あっという間に12月。忘年会シーズンに突入です。食べて飲んでパーツとやって、新年を気持ちよく迎えたいものです(航)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の
フリーダイヤル
☎0120(44)2130

